

産業生活常任委員会

(平成26年10月31日)

○ 伊藤 元委員長

皆さん、こんにちは。ただいまより産業生活常任委員会を開催させていただきたいと思
います。

今日は、前回の続きで所管事務調査、地域マネージャーのあり方についてというところ
でございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

まずもって、皆さんにお知らせをさせていただきます。芳野委員が少し遅刻をするとい
うこと、それから、中森委員のほうは公務の関係でご欠席ということで報告をいただい
ておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、本日の進め方についてでございますが、地域マネージャーのあり方について
の協議を15時ぐらいまでを目途に終結できたらなというふうな思ひでおりますので、よ
ろしくお願ひしたいと思ひます。

と申しますのは、この事務調査が終わってからですが、市民文化部さんから協議会を1
件、それから、商工農水部さんからも協議会を1件、申し入れが来てお申して、これ
をお受けしておりますので、この2件を受けて最終終了の目標を大体16時過ぎぐらいで終
了できたらなというふうな思ひでございます。限られた時間になろうかとは思ひますが、し
っかりとご議論いただきまして、きちんとした終結を迎えていきたいと思ひますので、ご
協力をよろしくお願ひいたします。

それから、本日最後に、11月定例月議会の議会報告会におけるシティ・ミーティングの
テーマについて決めていきたいと思ひますので、委員の皆さんのほうのお手元には今ま
でのシティ・ミーティングのテーマの一覧を配付させていただいてありますので、またこれ
をご一読いただきまして終了後に何かご意見をいただけると幸いでございますというこ
とで、よろしくお願ひいたします。

それでは、市民文化部長のほうからご挨拶いただきまして、中へ入っていきたくと思
いますので、よろしくお願ひいたします。

○ 前田市民文化部長

皆さん、こんにちは。いつもお世話になっております。

きょうは地域マネージャーのあり方ということにつきまして、17日の日に引き続いてご

意見を頂戴するというところでございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、その後ほど、協議会に切りかえていただき、楠総合支所の地区市民センター移行についてちょっと考え方をまとめておりますので、ご説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○ 伊藤 元委員長

ありがとうございます。

それでは、地域マネージャーのあり方について協議をしていきたいと思ひます。

前回、皆様より追加資料のご請求がございましたので、その資料をご用意させていただいております。その説明から行っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

市民文化部次長の山下でございます。よろしくお願ひをいたします。

まず、お手元にお配りをいたしました地域マネージャーのあり方についての1ページをお開きいただきたいというふうに思ひます。

まず初めに、地域マネージャーの募集状況、採用状況についてご質問いただきましたので、1ページのほうに記載をさせていただいております。

ここの一番上の表でございますが、採用年度平成16年度からでございますので、16年度から26年度まで、募集人数というのは各年度こちらに記載のような形の募集者がおありまして、一次試験の受験者数と合格者数、それと、二次試験の受験者数と合格者数で採用人数という形になっております。

それでは、一次試験の内容につきましては小論文、二次試験の内容につきましては適性クレペリン、いわゆる適性試験、クレペリンの試験と面接試験で、20年度からで、実施試験としてワード操作、エクセル操作も試験の対象に、20年度の採用分から入れております。

それで、ここにも記載のように、採用者数につきましては記載のとおりですが、年度途中でやめられた場合については追加試験をこのような形で、年度で複数欄になっているところにつきましては採用試験を途中で実施しておるといところでございます。

それと、2番目でございますが、地域マネージャー退任状況でございます。

こちらのほうに、任期途中でやめられた方の年数と、あと、退任理由につきましては、個人の事情、健康上の事情あるいは転職をされたりとか地域の役員になられたとか、こう

いったような状況になっております。任期満了でやめられる方については、この記載のとおりでございます。

続きまして、2ページ目をお願いいたします。

地域マネージャー年間事業目標・活動実績報告書例ということで、3ページ目以降、8ページまで、地域マネージャーの年間の事業目標、活動実績報告書、こちらは現物でございまして、少し名前と館長名、あと、年度だけ、少し省かせていただいて、あと、達成度の本人評価という部分はちょっと割愛をさせていただいておりますが、中身につきましてはそのマネージャーが出してきたものそのものでございます。

こちらで、私ども、これは年度当初に、まず、左側の平成何年度事業目標というものを、まず出していただいて、年度が終わりますと活動実績と、今後、残した解決すべき課題という形でマネージャーのほうから出してきて、それは当然、館長のほうはそれを確認はいたしておりまして、年度の終わりには、一番右側の欄でございますが、本人の評、自分の評価として達成度はどれぐらいだったというのは5段階評価でしていただいているという状況でございまして、上から順番に年数の浅いマネージャーから順番に、一番最後8ページまで6年、上から浅い順で、下が長いマネージャーの実績報告書というふうになっておりますので、ご確認をいただければなというふうに思います。

続きまして、9ページでございますが、地域マネージャーの活動報告例ということで、これは、実際に25年度中に地域マネージャーが地域マネージャー会議の中でそれぞれみずからの活動の状況を報告したものでございます。

10ページにつきましては、県地区の地域マネージャーが報告した状況でございまして、次のページを見ていただきますと、2年目で何をしてきて、その次めくって、12ページで2年目、3年目、最終年度4年目はどうしたというようなことをマネージャーとして4年間を振り返ってということで報告をされたものでございます。

続きまして、15ページでございますが、こちらは橋北地区のマネージャーが1年目は何をして、2年目は何をして、3年目は何をして、4年目は何をしたというようなことで報告をされた内容でございます。

ずっとめくっていただきまして19ページでございますが、こちらは富洲原地区の地域マネージャーが防災訓練の内容、富洲原地区で起こった内容についてマネージャー会議で報告したものでございます。

最後に、28ページでございますが、そちらは内部地区のマネージャーが地域資源を発掘

し、新しい視点を通して地域づくりということで、内部地区の概要等々をマネージャー会議で説明して、今後どのように進めていけばいいのか、課題解決をするのがいいのかということ、内部地区のマネージャーとして提案をしてきた内容でございます。

以上がご意見をいただいたものの資料でございます。

説明は以上でございます。

○ 伊藤 元委員長

ありがとうございました。

説明はお聞き及びのとおりでございます。

次長、これ、そうやけど、最後のほうのやつは、これは何かいろいろ、ええのかな。これも含めてやったか。

済みません、よろしくお願いします。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

この9ページ以降の地域マネージャーの活動報告というのは、マネージャー会議の中でマネージャーが、全員みえるマネージャーの中で、自分の活動を報告したというものの資料でございます。

○ 伊藤 元委員長

その資料ですね。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

それまでは、これは6マネージャーしか出しておりませんが、全マネージャーがこういった形のものを毎年度、年度始めと年度の終わりに提出するやつの抜粋を、上から若い年数の浅い方から長い方というふうに抜粋をさせていただいておるところでございます。

以上でございます。

○ 伊藤 元委員長

ありがとうございます。

ということでございますが、ご質疑、ご意見ございます方は挙手にてご発言のほどをよ

ろしくお願ひしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

○ 加藤清助委員

全部は詳しく見ていないもので、印象的にと、あと、どうなっておるのかなという質問になるかと思うんですけど、前半のところ、それぞれの地域マネージャーの方が年度当初に目標だとか掲げられて、どういう取り組みをして実績ですというのと、1年間やった中で、最初のほうのページには今後解決すべき課題等ということで整理をされていると思うんですね。

そもそも、その地域マネージャーを配置したときの目的というのが、民間等で活動されてきた経験を生かして市民主体の地域づくりを推進するために配置されたということで前回も説明いただいているんですが、そういう受けとめ方をする中で、例えば、今後の解決すべき課題として地域マネージャーさんそれぞれが問題意識を整理されますよね。その整理された課題の中で、例えば、その地域マネージャーさんや、もちろん上司的には館長がみえると思うんですけど、そこでは解決できないような課題を最後に解決すべき課題として上がってくると、じゃ、その地域マネージャーさん、それぞれの地域で活動した中でその課題を捉えたやつを、じゃ、統括する市民文化部のほうとの意思疎通やキャッチボールや今後のアドバイスだとかいう関係はどうなっておるのかなとふと思って、例えば、最初のページの日永地区市民センターやと、今後解決すべき課題の一番最後に女性の参画とか、これは別に日永に限ったことじゃないんですけど、日永の地区市民センターのマネージャーさんがその課題として一つテーマを捉えられたりとか、あるいは海蔵地区市民センターのところの今後解決すべき課題で上段のほうに、各団体への補助金支出のルール化とか、こういうのは一つの地区市民センターのマネージャーだけじゃなくて、全体の公平性だとか共通の課題としてマネージャーさんが捉えられたわけですよね、地域交通の問題だとか。

そういうふうに課題を整理をされた、発信なのかどうかよくわかりませんが、そういうのは地域マネージャー会議の中で意見のキャッチボールが行われて、その課題解決に向けて動いているのかというのがどうなっておるのかなというのと、それがないと、逆に、課題というふうに、1年やって課題とマネージャーさんが認識しても、それでとどまってしまうじゃないですか。そうすると、本来の23地区か22地区か、マネージャーさんを配置して市民主体の地域づくりという点で、どうフォローがされている状況になっているのかだけ教えてもらったらありがたいですが。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

次長の山下でございます。

今までは、前回も申し上げましたけれども、マネージャー個々の研修をしておりましてので個別でこういう形で上がってきておりましたが、マネージャー会議を開催して、各ブロックでこういった問題点、当然こういった問題点の中には予算措置とか予算とか、それぞれ共通の課題というのがございますので、今現在、各マネージャーのブロックごとにこういった課題を抽出してもらって、私どものほうに提案をしてもらっております。

それで、ただ提案とするだけではなくて、それはあくまでも、その提案をする内容については各ブロックで出したものをマネージャーの全体会議の中で皆さんにオーソライズして、それを提案してきてほしいということを今やっております、今、集約して、その各ブロックには今後予算までにはヒアリングをしてどういった内容をとということを確認して、予算化で要求するものは要求していくというような形の方式を今とっておりますので、ここに書いてある課題全てをできることはないかもわかりませんが、基本的にはその中で重要やということが各マネージャーがブロック会議なんかのところで提案をしていくというものについては反映ができるような予算化の考え方をしていきたいなというふうに思っております、こういうことで今動いております。

以上でございます。

○ 加藤清助委員

そうすると、ブロックごとと言われるそういう地域マネージャー会議の中で出されてきた問題点や課題や提案だとかというのが、市民文化部のほうで、またそれについて、例えば予算化に入れていくような意向だとか反応というの、キャッチボールがされているというふうに解釈、理解してよろしいのでしょうか。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

そういうことでしているというふうに思っております。

○ 加藤清助委員

とりあえず、ありがとうございます。

○ 伊藤修一委員

1 ページの資料のほうでちょっと説明というか補足をお願いしたいんですが、採用状況についてはこういうふうな結果ということですが、その退任状況の中で、40名のうち任期途中でやめられた方が半分おるとい、その半分のうちに15人の人が健康上か家庭の理由ということになるわけだけれども、これは、例えば、地域マネージャーの職務というか業務をやっていて健康上の問題が起こったのか、もともと病気があった人なのか、ちょっとそこらもわからないし、もう一つは、1年ごとに館長または自治会の関係者の人が評価をされると聞いているんだけど、その評価によって、人事考課というか査定によってやめられた方がおるのか、その辺のこともあわせてちょっとお伺いしたいんですが。

○ 伊藤 元委員長

傍聴に報道関係の方が入られましたので、ご報告申し上げます。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

次長の山下でございます。

個々の話で細かくは申し上げるのはなかなか個人情報なのでできないところもございますが、確かに、委員おっしゃるように、まず、更新のときに地域の事情と館長の考え方で、そこでストップしたというのはございますというのと、あと、中には本当に病気というか、原因がそのマネージャーの仕事が原因で公務災害、そういうことではなくて、普通の病気になられてという方もおみえになります。それと、やられてみえまして、なかなか地域なり館長との話、自分のやりたいこととのギャップが大きくて、やっぱりちょっと続けることができないというような方もみえますので、そういう意味ではいろんな理由でやめられている方がいるというのは事実でございます。

○ 伊藤修一委員

採用状況のところで、一次も二次も一応面接までして採用しているわけだから、この人たちは普通、任期4年は務めていただくということで採用しているわけだから、逆に、その人たちが続けられなくなった理由というのが、この資料を見ると、健康上とか家庭とか個人の事情という言葉でここへ上げていいのかどうか。先ほど次長が言われたように、館

長さんとの査定で、もうみずからやめられた人がおるんだったら、その人は一体この20人の中で何人みえるのか。

そういうこともやっぱりおっしゃっていただきたいし、その業務をやるのがやっぱり失望というわけやないけれども、自分自身にこなせなくなったということをいかに分析するかという、そこのやっぱり分析がないと、これからの地域マネージャーのあり方をこの議会や委員会で議論をしているそのスタートラインに立てないわけですから、もう少し丁寧にとちょっと説明をいただきたいんです。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

査定で、要するに更新不適當というのはお一人です。

それと、おっしゃるように、今までは、先ほども申し上げましたけど、どちらかといいますと、私どもとマネージャーで話し合いをして、やめるやめやんという話をいろいろしております。ところが、それをやっておりますと、どうも1対1の関係になって、そうしたら館長を入れてとか地域を入れて話し合いをしましょうかといってもなかなかその場合はマネージャーさんも、それはちょっとという話になって、なかなかちゃんとした話といますか、お互いにわかり合えるような状況に持っていくというのは正直申し上げまして結構厳しいなというのは地域感としてはございましたので、今回、今年度からやらせてもらったのは、各ブロックでマネージャーさん同士が話し合いをすることによって、そういった悩みをいろいろ話し合いする中で解決していただけるようになってきているのと、ただ、その全体の中にいろんな同じような悩みを持っている方がみえますので、それをまとめて私どもと話をさせていただければ個々がどうこうという話にはなりませんものですから、そういう形に今、変えさせていただいているというところでございます。

○ 伊藤修一委員

もうちょっと、とりあえず最後にしますけれども、やはり志を持って採用された人、採用した人がやはり4年任期を続けられないということに対して、やはり育てるといふか、やはりその障壁は何かといふと、やっぱり地域ややっぱりその地区の中の間人間関係なり、そういうふうなところに問題もあるのかもわからないし、だから、逆に言えば本庁がやはりもう今以上にこの地域マネージャー、激務といふか重たい仕事をしていただいておりますんだという認識のもとに、やはりそういう育てる観点で、健康上といふような言葉が今後出

てこないようにぜひ配慮だけいただけたらと思います。

とりあえず。

○ 伊藤 元委員長

という要望でございますが、よろしく申し上げます。

○ 伊藤嗣也委員

前回の10月17日の地域マネージャーの資料、身分とか報酬、職務、業務の例とか、その資料をいただいてご説明を受けたわけですが、それと実は照らし合わせてみました、きょうの資料と。

例えば、前回いただいた資料の2ページの4番、地域マネージャーの職務というものは明確にうたわれておるわけですね、五つ。にもかかわらず、実際にやられておる地域マネージャーの業務はここに書いていないことがあるわけですが、具体的に、川島地区市民センターの資料ですが、地域マネージャーの職務、前回の資料の中には地域防災に関することは(4)で明確に示されて、業務の例にしても地域防災業務ときちっと大きくうたわれておるんですが、ここで地域の安全安心のまちづくりで地域防犯のことを具体的にマネージャーが取り組んでおるわけですね。恐らく、前回の資料の5番にその他地域社会づくりに関することが書いてあるからそこに含まれておるといような表現になろうかと思うんですが、答弁で。そうじゃなくって、昨今の四日市市防災メールでもかなり多くの防犯情報というのが流れてくるわけですよ。当然、マネージャーの業務として地域防災に関することとあるのなら、やっぱり地域防災、地域防犯とか、そういう条例もあるわけですから、当然、その辺はマネージャーの仕事の業務の、職務の中に入っておっていいのではないのかなと思うんですが、その辺はどうなんでしょうか。要は、全くどこにも書いていないんですよ、前回の資料に、業務の中身は。その辺、どのように考えてみえるのか。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

確かに委員おっしゃるように、防犯という部分についてはこちらのほうには記載しておりませんが、委員もおっしゃっていただきましたように、地域社会づくりの推進やその他地域社会づくりということで、これは地域性が非常に多くありまして、いろんな分野を羅列、列挙、いろんな問題をここへ書き込めば、それはそれで一つの方法でございます。で

すが、今回は地域防災という、東日本大震災が起こって、それでこういった地震についてはもっと力を入れていこうということで、こういったことを書いております。

この部分につきましては、前回もちょっと申し上げましたが、もう一度、少し実態に合わせた形で、非常に地域でたくさん、全地域で取り組まれている内容が多いものについてとか、そういったものについて少しマネージャーがやっぱりそこへかかわっていかなあかん福祉の問題とか、さっき言われた防犯の問題とか、そういったものをもう少し私どもでこれを検証するという話をさせていただきましたので、その辺で少しこれのほうもそのときに、職務というものをもう少し明確にやればなというふうに思っていますので、少し今の段階ではお待ちをいただけないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○ 伊藤嗣也委員

そのとおりやと思いますね。高齢化社会が進んで、例えば、空き家が非常にふえてきている地域だったり、高齢者の方がたくさん住んでいただいている地域になっていってしまっておるところなんかは当然、防災もそうですが、犯罪もふえてくる。やはり地域マネージャーの役割というものは、本当に今ここで、このまま続けるのであればきちっと交通整理をして、本当にいいものにしていくのかどうなのかということをはっきりさせやないかと思うんですね。ぜひ、十分ご検討いただいて、いい形で進めてください。

要望として、終わります。

○ 伊藤 元委員長

ありがとうございます。

○ 小林博次委員

急場に見ておるだけでちょっとよくわかりませんが、山下次長の答弁なんかも聞いていくと、例えば、防災、これは地域マネージャーの仕事と違うと思うんやわ。こんなの、センターを挙げて、災害が起こったときはセンターが拠点になって司令塔の役割を果たすという、そういう確認があるわけで、こんな地域マネージャーに任せて何かという発想は、逆に混乱が起きやへんのかという疑問が出てきたわけね、今、聞いておって。

余りにも範囲が広過ぎる、仕事の範囲が。何か、例えば、中部地区なんか見ていると、

社会福祉協議会の活動に参加、支援を行う。それはわかるんやけど、参加というのはそこへ会議やったら行ったり、それで、支援って何が支援なん。ここ書いてあるやんな。

だから、これだけの報告やと、活動実績というのが、そうすると、そこへ行って何かしゃべったわけやん。それは、しゃべらなくても参加しなくても変わらないと思うんやけど、だから、何をどんなふうにしようとして参加しているのか、参加しているのなら気持ちをつかもうとしておったのか、ちょっと中身がよくわからない。

だから、そのあたり、仕事の量が多過ぎるんと違うかなということと、それから、実際にセンターがやるべき仕事を押しつけていないのかという気がしたわけね、これを見ておって。それから、もうちょっとひどいのは、これ、中部地区の三つ目の一番最後やけど、社会福祉協議会活動のより一層の参画、足らなんだんやわな。だから、もっと参加する、支援に努めたいと、こう書いてあるんやけど、これ、報告した後、かわったわけやろう、ここのセンターのマネージャーは、違うの。余計なこと書いてたん違うの。次の人は、こういうことをしたいというのを聞いて何かせなあかんのに、前の人がこうやってせいよと言っていくと、そうすると、何かわからんわ、参加せんらんとということにならへんのかね、これ。だから、その辺がちょっとよくわからんので、ちょっと交通整理して、聞かせてください。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

小林委員のご指摘で、当然、これ6年目のマネージャーがこの課題を残していくと、1年目のマネージャーに引き継がなあかんと、こういう話になるのは本当に事実でございますので、この辺は少し私どももこの様式を画一的に、やめられるマネージャーと引き続きやられるマネージャーでイコール、一緒の様式を使っておりますので、この辺はやっぱりもう少し整理をしていきたいというのと、委員おっしゃられたように、その中身、どんな指導をしたのか、どんな助言をしたのかというところも全てわかるかどうかは別として、何か私どもも把握できるようなもののやり方について少し検討していきたいというふうに思っております。

以上です。

○ 小林博次委員

だから、どんな問題に、どんなテーマに、どんなふうに取り組んでいくのかということ

と、それから、かかわったら、こんな問題があったけど、こんな成果があった、1年ではできやんわ、3年かかったとか、何かそういう報告の仕方がないと、ちょっとわかりづらいと思うんやわね。

それと、センターがやるべき仕事と、それから、地域マネージャーに託す仕事をもう少し明確に分けないと、地域マネージャー、要求ばかり強くて、結局、一身上の都合かなんかでやめてしまう、こういうことにつながっていくような気がするわけね。だから、そのあたり、僕は地域マネージャーの制度というのは要らんというふうに思っているんやけど、どうしても続けるというならそういうあたりを改善しないと、ちょっとまずいかなと。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

私どもも、マネージャーの仕事とセンターの仕事の明確化というのは前から課題として認識しておりますので、その辺の、確かにこれは全ての地区で画一的にするということでは、いろんな事業があるのに総花的に書いてありますので、もう少しセンター間で、館長とマネージャーの話し合いの中で、これはマネージャーの業務、こっちはセンターということはある程度わかる形で明確化するように努力していきたいなと思います。

以上でございます。

○ 小林博次委員

まだもやもやしておるんやけど、もやもやしておるといのは、せっかく地域マネージャーという制度をつかって人を雇って、でも、団体にしてみたら、事務整理、事務局みたいな雑用みたいな仕事が入ってくるわけやわね。それやったら、センターの地域マネージャーの仕事ではないわけですやん、指導したりというの。ここでも補助金の手続の申請とか、そういう指導を行ったと書いてあるけど、そんなんは地域マネージャーの仕事と違うと思うんやわな。便利屋に使うとこういうことになると思うんやわ。

だから、この辺の報告、ちらちらとしか見ていないけど、便利屋に使われておるのかなという気がしてくるので、やっぱり便利屋と違って、きちっと方向を持って、方針を出して活動していただく、こんなことが大事やけど、それなら、地区の自治会活動されている方、大変な仕事をしているわけで、そこに自治会のあり方を考えるだとか、それから、社会福祉協議会の仕事、活動内容を考えるだとか、これは社会福祉協議会に、そんなことを委託金出して、そこ自身に、団体自体にやってもらう。そのほうが効果が大きいと思っ

ておるんやけど、一遍それも検討してください。

終わり。

○ 伊藤 元委員長

ということですが、よろしくお願いをしたいと思います、検討をね。

ほかにご意見とかご質疑、ございませんでしょうか。

○ 伊藤修一委員

今ちょっと小林委員のほうからも今後の方向性みたいな部分で少し話があって、ちょっと私も先週の月曜日に議員説明会があったときに、そのときに健康福祉部の資料が出てきて、地域包括ケアシステムと。今後、平成29年4月までに、自治会も入れて地域で支え合いの体制づくりをして、もうそれでいろいろ書いてあるんやけれども、自治会とか、そういうことをもう書類に上げる以上は、市民文化部さんと、そういうことをきちっと話し合いがなされておるのかどうかと思って当日確認もしたら、その健康福祉部さんが言われるには、地区市民センターの館長さんや地域マネージャーさんも含めてこの仕事はやるというようなことをおっしゃられるわけね。

それで、私らも今これちょっと議論しておる最中なんやけれども、29年4月ってもう待ったなしの時期に、本当に健康福祉部さんが言っておるようなことを市民文化部さんが対応できるのかどうか、それで、地域マネージャーさんって、そういう地域のまちづくりにどういう役割をするつもりで市民文化部さんは健康福祉部と話し合いをされてみえるのか、ちょっと、それを一回教えていただかないと、ちょっとなかなか今後のことも含めて協議もできないなと思っておるんですが、いかがでしょうか。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

確かに地域包括ケアシステムの話につきましては今、地域を回らせてもらって、こういうふうな形で地域ケア会議というのを設けてやってほしいという話をしております。

実際に、今、在宅ケア、事実上、在宅介護の運営委員会というのがあって、そういったものについてはもう館長も今、実際に参画しております。それをもうちょっと拡大して行って、大きな意味での地域での在宅のケア会議というのをやっていきたいということで回っております。

その中に、マネージャーと館長が中心になってそれをつくるということではなくて、参画をしていって、ある意味、メンバーの1人として意見を言っていくというようなレベルでの考え方を今のところはしているということでございまして、センターのマネージャーがそれを中心になってまとめるというようなところまでは、そういった話にはなっておりませんので、マネージャーはそこへ出席して意見を述べると、こういう形、館長も一緒ですが、そんなように私どもは認識をしております。

以上です。

○ 伊藤修一委員

これはまだ絵に描いた餅というか先の話だと思うんですが、地域マネージャーさんもそこへ行って意見を言うということであれば、意見を言うだけの資質とか経験とか研修とか、そういうものもなければ、さっきの話で、一番冒頭の話で、任期4年の途中で倒れる人だって出てくるわけ。今までそういうふうな業務がなかったことを、これから2年かけてそういう業務を新たにやってくださいよという話じゃないですか。

だから、逆に本庁なり、そういうふうなところが、じゃ、この福祉の問題に対してどんな支援ができるかということが何もなくて、意見を言えといわれてもこれは、そらたまったもんじゃなくて、もうその専門家がおるところで何も物を言えやんと、いや、逆に地域のニーズは一体何なんかと、住民の声は何なんかとか、住民は何を望んでおるんだと、ドクターとか専門性のある人にその庶民のそういう願いや声を代弁するのが地域マネージャーのはずですわ。そこのところのやっぱり支援をきちっとできてなくて、もう健康福祉部ではもう書類になって走っていくわけや。そういうところが何か縦割りで、市民文化部さんと健康福祉部さんがきちっとそんな話できておるのかどうか、改めてもう少しちょっと突っ込んで聞きたいなと思うんですが、いかがですか。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

地域包括ケアシステムの話については、健康福祉部と私ども市民文化部は、各地区と一緒に私と健康福祉部の次長を中心に一緒に回って、一緒に連合自治会長さんなんかとの議論をしておりますので、その辺のことについては共通的な認識を持っているという形でおります。

○ 伊藤修一委員

共通的な認識のもとに、じゃ、この地域マネージャーさんに新たな仕事をオンしていくというか、そういう部分で、一体これから本庁として、これからもまだ地域マネージャーの募集もしていくし、支援もしていかなあかんわけで、そういう部分で一体、じゃ、何をそういうふうな業務の中で支援できるのかという、そこの部分をきちっとやっぱり入れていただかないと、やはり、また潰れる、また地域と合わなんだ、途中で健康を害したとか、そういう物すごいリスクを背負うことを心配しているんです。いかがですか。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

おっしゃるとおりでございます、マネージャーに過度なあれもこれもどれもという話になるという、今、確かにそういう傾向がないとは言い切れない部分もございますので、やっぱり先ほども申し上げましたように、明確化という、要するにマネージャーとセンターの仕事の明確化というのをもう少し私どものほうでイニシアチブをとって、やってもらわなければならないものはやってもらわなあかんということなんですが、ただ、これは全地域一斉にやるかどうかというのはまた地域との課題の違いも若干、温度差もありますので、その辺は地域と十分相談してマネージャーと館長と地域の連携で、相談の中で私たちも入って行って一回整理をしていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

○ 伊藤修一委員

ある程度は納得できるんだけど、やっぱりきちっとそういうふうな地域マネージャーさんに対する支援というのをきちっとメニュー化しないと、やっぱりそういうのは今、心意気というか決意はようわかっておるねん。逆に、もう健康福祉部のほうでは27年4月から地域にそういう立ち上げ支援をしていく事業をもう用意して、もう既に活動している人たちやサークルに対して何か補助を打つみたいなの、そういうような話まで月曜日に出たおったわけで、もう待たなして、いわゆる3カ月後か4カ月後には、来年27年4月からはもう本当に今でも動き出すみたいなの、逆に動き出さないと29年4月は迎えられないわけだけど、もう少し本当に専門性の要る部分やったらちゃんと市民文化部のほうでこれだけのことは用意しますとか、逆に、地域マネージャーさんが不安にならんように、社会福祉協議会なんかと――地区社協を押さえているわけだから――やっぱり市社協との研修、

やっぱりそういうバックアップ体制、やっぱりそういう部分できちっと地区社協と地域マネージャーさんがリンクできるような、そういう支援という具体的なメニューを持ってあげないと、やっぱり絵に描いた餅になると思うんだけど、その辺ちょっと、部長、どうです。

○ 前田市民文化部長

おっしゃられるとおり、地域マネージャーが新しい分野といいますか、これからの地域課題として、例えば、地域包括ケアの問題なんかにもかかわっていくということになれば、今までとやはり経験がないような地域マネージャーもおるわけなんで、基本的にはやっぱり考え方であるとか、やはり先ほどの市民目線で本当に地域のニーズをどう捉えるか、その地域のやっぱりどういう目線で課題認識してこなあかんかとか、それから先ほど言った、いろんな相談窓口が行政の内部にもありますので、どういう役割分担がなされておって、どこへやはり話をつなげるといいか、我々も館長と一緒に、そのあたりを連携してやれるような、やっぱりそういう研修であるとか、お互いの意識共有化できるような場をつくっていくということ、これからマネージャー会議や館長会議等を通じて、そのあたりもかなり意識したような内容にしていくということをやっていきたいというふうに思います。

○ 伊藤修一委員

結構です。

○ 加藤清助委員

伊藤修一委員の質疑で聞いていると、地域包括ケアシステムの地域ケア会議の福祉の部分に、それにこの間の議員説明会で健康福祉部にもう出てきているという話でやりとりやられましたよね。そうなるっていくと、今やっている地域マネージャーの、前にもらったペーパーの具体的な業務例というところにはないことを今度やろうということも既に動き出しておるわけやわね。それで、僕らは、今、地域マネージャーのあり方についてとって、主には今までのこの地域振興業務、地域防災業務、社会教育業務の担っていただいている地域マネージャーのやってきたあり方と今後についてやっておるんやけど、片一方で、僕らのテーマの外で何か動き出しておる部分があるもので、それはちょっと、そういう福祉

部分に本当に地域マネージャーや地域がどうかかわっていくのがいいのかということも含めて議論が、どこでやるのかちょっとよくわからんけど、ないと、ここで例えば所管事務調査で地域マネージャーのあり方についてと行って振り返っての議論をやったとしても、いや、その後で、また、こう変わるんですわというふうになってきたら、何やったんということになるもので、ちょっと今、その過渡期なのかかわからんけど、そこもやっぱり明確に示すことは今の段階ではできない部分があるかと思うけど、そういう想定されている部分もやっぱり示して、きょうとは限らんけど、今後の中で出していってもらわないと、僕らのこの委員会での議論と、今度予算がかかわってくるのかわかりませんが、お願いしたいなと思いました。

○ 伊藤 元委員長

というか、私はずっと話を聞いておりましたって思っていたのが、何かええように使われておるといようなお話もあったもので、それはいかんかという思いがあったんですね。

ところが、山下次長の答弁を聞いておりましたら、健康福祉部のほうからの地域包括ケアシステム、そういうのに対しては、こちらから意見を言うていくぐらいなことという答弁があったと思うんです。ですから、地域マネージャーがそれを、業務を受けて、実際に動くようなことではないのかなというふうに私は理解しておったんです。

ですから、地域マネージャーとなればその地域のことをいろいろとわかっていく立場にあると思いますので、そういう業務に対して意見を言って参考人として加わっていくことぐらいであろうなというふうな思いであります。

やっぱりこの地域マネージャーというのは市民文化部の主軸で、地域とのマッチングをきちっとあわせていくというのが主たる業務やと思っておりますので、そこら辺だけは庁内でもきちっと軸を通していただいて、あっちこちらから使い勝手のええような何でも屋さんにならんように、ひとつ筋を通していくべきやろうなというふうに思っておりますので、多分、大丈夫やろうと思っておりますが、ひとつその辺はしっかりとお願いをしていきたいなというふうに思っておりますというようなことかなとは一応思っておるんですが。

加藤委員、どうでしょう。

○ 加藤清助委員

いいですよ。よく見えないもので。

○ 伊藤 元委員長

前回の17日のときからいろいろと、皆さんからいろんなご意見をいただいております、やはりちょうど、始まりは一斉ではなかったけれども、10年を迎えるこの地域マネージャーのシステム、ちょうどいい見直しの時期に来ているのではないかとということが浮き上がってきておるかなというふうに思っております。

ですので、この先続けるのであればその辺をしっかりと整理していただいて、実のあるマネージャーシステム、そして、やめるのであれば、またやめるの代替のどういったことをやっていくのかというしっかりとした施策を示していただけると委員会としてもありがたいなというふうに思っておりますね。

○ 加藤清助委員

前回は、地域マネージャーについてというので資料も提供いただいて、今回は、前回の意見をもとに地域マネージャーから、マネージャー会議とかいろんな実態の報告、課題等を出されて、さっき委員長おっしゃられたように、10年という節目があるわけですね。ですので、今後を考えていく上では、例えば、統括する市民文化部としてこの10年間の地域マネージャーの活動の総括的なことをちゃんと示していただいて、それで、これからこういう道筋や力点を置きながらということをやっぱり出してもらおうということ、時期はいつかわかりませんが、近いうちに……。そうしないと、マネージャーさんからは報告出してもらった、マネージャー会議の報告はこうです、それで、どう総括して、どうしようとするのかというところをやっぱり示していただいた議論ができる場があるのかなと思いました。

○ 伊藤 元委員長

そうですね。もう全くおっしゃるとおりやと思います。

ですので、この所管の委員会へ、今年度とは限りません。次年度に向けて、その整理をしていただいて、必ず報告の場をいただくということをやっていただきたいなというふうに強く要望はさせていただきたいと思っております。

いかがでしょうか、皆さん、ご意見、ご質疑。

○ 早川新平委員

冒頭で加藤委員が地域との課題、この1番の右側にある今後の解決すべき課題等というところで、地域の個別の課題と、それから、四日市全域の地域マネージャーが出してきた課題というのは共通するところがありますやん。

例えば、3ページのこれを例にすると、先ほど加藤委員がおっしゃった女性の参画としか書いていないわけや。これを例えば見ると、一番上の地区連合自治会活動への支援活動というふうに、まさしく自治会の活動で何かをやったときに女性の参画が少ないですよ、これがわかっておるんだから、これをどのように女性をふやすかということは、まさしく地域マネージャーの私は仕事やと思っておるわけや、ここが。これは、協力して、女性の参画、少ないですねと。じゃ、自治会長さん、こういう形で女性の参画をお願いできませんかといって、ここを羅列するだけじゃなしに、まさしくこの課題を解決することが地域マネージャーさんの仕事やというふうに私は思っています。

だから、全体の共通する課題というのは、マネージャー会議なりでどのように解決していくかで、課題を出すのではなしに、出てきた課題に対してどうやってそれを解消していくかという方法論を出すのが会議であって、ありましたねありましたねでは、会議した意味がないというふうに私は思っています。

それから、伊藤修一さんが先ほど言った、最初に採用をしたときに、私、これ一番最初に言おうと思ったら伊藤さんおっしゃっていただいたので、例えば、採用する時点で家庭事情はわかるし、突発的な病気ならもういたし方ないけれども、地域マネージャーの自分の考えていた地域マネージャー論と、実際にやってみて合わないからやめるというのは、採用するときのところに問題点が出るはずなんで、余りにもちょっと多過ぎるなと思って、本当に半数近くあるのは、これ何か問題があるので、それは採用時にそれが見抜けなかったかなというところもあるので、それは今後、課題かなと。

10年たったので、これから問題点、課題が出てきたので、地域マネージャーは地域で全体で共通する、四日市中で共通する課題、それから、お願いをするべきところと地域の個別の課題に携わってもらう、両方あるので、そこのところを今後解決していってもらいたいなという気は非常にいたします。

以上です。

○ 伊藤 元委員長

要望としてね。ありがとうございます。

早川委員から、地域との問題の課題解決に向けたことを要望としてありましたので、ひとつ、ご検討いただきたいというふうに思います。

○ 小林博次委員

伊藤委員のほうから、これから始まっていく地域包括ケアシステムの問題が、健康福祉部の問題が提起されておりましたけれども、個人的には、さまざまな問題に取り組んでいかんとあかん時期が来ている。だから、それに取り組むために、今の仕組みで対応できるのかと、僕はできないとっておるんやわ。だから、この10年というのを機会に、どうやってしたら対応できるのかということをやっぱり考えていかんとまずいと思うね。

例えば、福祉の問題でも新採のところは相談事に行くと、あかんやつが出てくるわけや、勉強不足で。実際にあかんと言われたが、対応を聞いておったらできましたと、苦しみ終わってからできましたと言われるわけやね。

だから、今度、例えば、今の介護システムのままでいけば制度そのものが破産しかねるような、そういう雲行きやわね。そうすると、在宅でもう少しお互いが地域の支え合いの中で高齢者を面倒みていかないと成り立たんという局面を迎えて、これ、問題提起をされたわけやね。だから、そこら辺の流れにやっぱりあわせて、センター活動そのものも変化していく必要があるのと違うかなと。

何もかもというのはそれはわかるけれども、とてもそんなできっこないと思うので、やっぱりかなり絞って、もっと専門性を持った人たちに、例えば、さっきの福祉の話で言えば、きのう、きょう来て慣れていないからわからなかったけど、10年も福祉の仕事に携わったら、わかっておったということがあるわけ。そうしたら、退職職員のまだ元気のええのがたくさんおるわけや。そういう人たちに協力を求めるような仕組みであったり、当然、若い人の参加も要るので、だから、少し変化、角度を変えて、やっぱり総括をして、この次どうするのかということに取り組んでいただきたいなと、こういう要望にとどめますけれども、何かコメントがあったら。

○ 前田市民文化部長

やはり、いわゆる地域の中で支え合っていくということは非常に重要な課題になると。そのために、今までの行政のやり方だけで、できる部分もあるかもわかりませんけ

ど、難しい。ただ、今の現状でどうやるかというところを最大限やっぱり工夫する中で、おっしゃられるように、基本的な部分というのをやはり変えていくという努力はあわせてしないと本当にかゆいところとか困ったところに手を差し伸べられやんことがふえてくると。このままではやっぱり難しい時代になっているというのは我々もよく認識しておりますので、おっしゃられるところを十分我々も含んで、今やれること、それから、これからどうしたらいいかということもしっかり市民文化部としては他部ともいろいろ協議して進めていきたいと思えます。

○ 小林博次委員

以上です。

○ 早川新平委員

今、ざっと目を通させてもらったんだけど、この3ページの、名前出してええの、日永地区のところの3番の、NPOとの協働し、コミュニティ活動をアップするというの、これ、他地区の、このペーパーだけから見ると、ほかの地域ではNPOという言葉は出ていないんやわな。

それで、これの3番のところへ行くと、NPO活動との窓口となり、市とNPOの協働を図り云々というところが活動実績というふうにありますやん。地区市民センターの場合は、現状としては連合自治会、自治会長さん、社会福祉協議会も含めて、それが主になっておると思うんやけれども、ここの地域というのはNPOと自治会とうまくいっているということ、逆に言うと。

ほかのところの活動報告にはどこにも出ていないので、それでちょっと気になったんだけど、このあかんええという問題ではなしに、そういう、もし、例えば、ここの日永地区がきちっとそういう運営がうまくいっているのであれば、これは大いにまた他地区でも参考にしなきゃいかんやろうし、それがちょっと今、目についたので。

○ 伊藤 元委員長

いかがでしょうか。

○ 山下市民文化部次長兼市民生活課長

NPO、この3番目の業務内容と手段のところを見ていただくと、1番、大瀬古町子供と地域の環を育む会とか、四日市の交通と街づくりを考える会、これのことがNPOという表現の仕方と思いますが、地域での活動をしている団体との連携ということと一緒にやっていきたい、日永の場合は内部・八王子線のことを一生懸命やっていますのでというのと、この大瀬古町子供会、こちらのほうもそういった地域と一緒にやるという団体、これはあくまでも地縁団体というよりも十分NPO系の団体になりますので、そういったことで、その地域での交わるようなNPOとの活動という形のものだというふうに理解しております。

○ 早川新平委員

今の説明で少し理解はさせてもらったんですけど、ずっとNPOと四日市市自治会連合会との仲のよさというところには非常に問題があると思っておるんやわな、現実には。共存、うまく、自治会活動でできないところだけをNPOでやるというならいいんですけども、どちらかというに対決姿勢が物すごく見受けられるというのが現実やと思っていて、ここにちょっと目が、今、山下次長が説明していただいたんで、自治会が認めたような形やろうと推測するんですけど、ほかの地域の地域マネージャーの活動にそんなこと一切、どこもNPOなんて出てこなかったんで、ちょっとお伺いをしました。

もしそれがうまくいっているのであれば、他地域のところでもうまく共存していけばいいんじゃないのかな、これこそ地域マネージャーの潤滑油としての役割になるのかもわからんけれども、それでちょっとお伺いをいたしました。

○ 伊藤 元委員長

ありがとうございました。

ほかにご意見、ご質疑。

(なし)

○ 伊藤 元委員長

ありがとうございます。

ないようですので、所管事務調査につきましてはこの程度にとどめさせていただきたい

と思います。

前回の10月17日から2回にわたって、各委員さんからいろいろと貴重なご意見をいただきました。

この意見をしっかりと踏まえていただきまして、10年、節目という時期に地域マネージャーのあり方を整理していただいて、今後の活動につなげていっていただくなり、そしてまた、この所管の委員会の方へしっかりとそのまとめをご報告いただきますよう強く要望させていただきまして、本日の所管事務調査を終了させていただきたいと思います。

どうもご苦労さんでございました。

それでは、ちょうど1時間経過しましたがけれども、どうしましょう、休憩を挟んで協議会ということで、わかりました。

それでは、10分ほど休憩をさせていただきたいと思います。2時10分から再開、よろしくお願いいたします。

14：01 休憩

15：38 再開

○ 伊藤 元委員長

それでは、協議会から産業生活常任委員会に戻しまして、続けていきたいと思います。

冒頭にお話をさせていただきましたが、もう以上できょうの協議会のほう、それから所管事務調査のほう、滞りなく、皆さんのご協力の中で時間以内に終わることができまして、本当にありがとうございます。

最後なんですけれども、シティ・ミーティング、11月定例会議会の議会報告会の中でのシティ・ミーティングのテーマについてですけれども、一応、日時が平成27年、来年度になります。1月9日の金曜日を予定しております。場所は、正副にお任せをいただきましたもので、正副のほうで調整させていただきましたところ、楠総合支所の3階の大会議室で行ってきたいというふうに思っております。

そこで、シティ・ミーティングのテーマについてをお決めいただきたいなと思うんですが、皆さんのお手元に従来からやってきたテーマのタイトルが書いたやつをお渡しさせていただきます。何かいいテーマがあればご提案をいただきたいなというふうに思

いますが、いかがでしょうか。

(「一任」と呼ぶ者あり)

○ 伊藤 元委員長

ありがとうございます。

○ 小林博次委員

もう残っているのは工業やろうね。

○ 伊藤 元委員長

小林委員から一応工業についてということ。

(発言する者あり)

○ 伊藤 元委員長

そうですか。

実は、場所を楠総合支所にさせていただいたことで、できたらテーマについて、ちょうどもうこれ来年の1月の報告会になりまして、2月7日には合併の10年を迎えるということがございますもんで、楠の地区の皆さんに、この合併10年を振り返って、合併についてどう思うかとか、ちょっとタイトルは考えやなあかんと思っておりますけれども、合併について思うこと……。

○ 小林博次委員

はみ出さへんの、それって。テーマ、はみ出さへんのか。

○ 伊藤 元委員長

テーマ、はみ出すやろうか、合併についてと。市民文化部の所管の範囲で、大きくちょっとがぼっと外れていくと困りますので、その辺は今も言ったような市民文化部の所管で、もしくは我々が所管しておる商工農水部とか、そういった分野での合併についてという部

分に限ってちょっと皆さんから意見をお聞きして、まとめていきたいなというふうな思いがあります。

ですので、一遍、その辺でご一任いただければ幸いかなというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(異議なし)

○ 伊藤 元委員長

わかりました。ありがとうございます。

そうしたら、ちょっとその辺を制限しながらやっていきたいと思っておりますので、ご協力のほど、ひとつよろしくお願いしたいと思っております。

ありがとうございました。

それでは、これで全ての協議事項も終わりました。

それじゃ、長時間にわたりましてありがとうございます。お疲れさまでございます。

15 : 42 閉議